

大和東高等学校における実践的防災教育の取組（令和元年度）

1. 火災避難訓練（年2回実施）

(1) 第1回(平成31年4月19日(金) 6校時)

<目標>

地震災害や火災に備え、避難の基本的訓練及び避難経路の確認を行い、非常時における生徒の所在確認を速やかに確実に出来るようにする。

<内容>

- ・火災発生を想定した避難行動の訓練
- ・県立瀬谷養護学校大和東分教室との合同実施
- ・通報訓練も同時実施



<結果と課題>

- ・グラウンドへの避難は迅速に行えるが、担任による点呼確認に時間がかかってしまう。
- ・防災委員の中に率先して避難後の点呼を行っている者がいた。
- ・事務室での通報訓練は、事務長だけでなく誰でも実践できるように訓練している。

(2) 第2回(令和元年12月6日(金) 6校時)

<目標>

地震災害や火災に備え、避難の基本的訓練及び避難経路の確認を行い、非常時における生徒の所在確認を速やかに確実に出来るようにし、職員・生徒の防災意識や減災意識の向上を図る。

<内容>

- ・地震発生に伴う火災の発生を想定した避難行動訓練を実施した。
- ・緊急地震速報(訓練版)を用いて実施した。
- ・訓練実施前に、防災アドバイザーに要項、校舎内外を確認していただき、アドバイスをいただいた。
- ・例年出席番号順に整列後点呼を行っていたが、素早い人員確認に重点を置き、出席番号順の整列にはこだわらなかった。

<結果と課題>

- ・緊急地震速報(訓練版)を用いることで、緊張感のある雰囲気を保つことができた。
- ・今年度は出席番号順の整列にこだわらずに人員確認を行ったが、避難完了報告までの時間は例年とは変わらなかった。

2. DIG研修会

(1) 防災委員会によるDIG研修会

<目標>

学校周辺の特徴を知る。災害発生時に地域のために何ができるか考える

<実施日と内容>



実施日	令和元年7月4日(木)	令和元年7月8日(月)
内容	街歩き ・防災委員を4グループに分け、4ルート of 「安全な場所」「災害時役立つ場所」「危険な場所」などを調査 ・グループごとに情報をシェア	街歩き防災マップ作成 ・1日目の調査をもとに、街歩き防災マップを作成 ・作成した地図をもとに、各グループで発表。 (良いところ、悪いところ、人手が必要となりそうなところ、地域のためにできること)

## 第Ⅱ章 防災教育に係る指導内容及び指導上の留意点

<視察者> 10名

大和市危機管理課、大和市教育委員会、県立高等学校、県立特別支援学校、神奈川県教育委員会

<結果と課題>

- ・真剣に取り組んでおり、防災委員の意識の向上に大きな役割を果たした。
- ・大和市ハザードマップ、土砂災害警戒区域を示した地図を用いた。
- ・本校教職員もグループを作り、生徒とともに参加した。



### (2) 大和市立大和東小学校との合同DIG研修会

<実施日> 令和2年2月28日(金)

<参加者> 本校防災委員、大和市立大和東小学校教職員

<内容> 本校防災委員が各グループのファシリテーターとなり、DIG訓練を実施

<結果と課題>

- ・本校と大和東小学校との連携の場となった。
- ・本校防災委員の一年間の学びを発表するよい機会となった。
- ・隣接する学校同士、発災時の行動を確認することができた。



### (3) 次年度のDIG訓練に向けた校内グループワーク(令和元年11月1日(金) 5、6校時)

	目 標	内 容
1 年 生	(1) 次年度実施予定のDIG訓練に向け、地図を使用し、想定される災害やその回避方法をグループで考える方法に慣れておく。 (2) 身近に潜む危険を認識し、防災に対する意識の向上を図る。	・災害の種類を学び、予想される危険と回避方法を考える。
2 年 生	(1) 防災マップを作成し、大和市の防災上の長所と短所を考える。 (2) 身近に潜む危険を認識し、防災に対する意識の向上を図る。	・通学路の地図を用いたDIGの実施 ・防災上の長所、短所、地域のためにできることを考える。
3 年 生	(1) 防災備蓄や非常時の連絡方法を考えさせる。 (2) 身近に潜む危険を認識し、防災に対する意識の向上を図る。	・災害発生時のライフラインについて考える。 ・防災備蓄の予備知識を身に付け、自分の家に必要な防災備蓄を考える。 ・災害発生時の家族との連絡方法と避難先を考える。

<結果と課題>

- ・各学年異なる内容で防災グループワークを実施した。
- ・3年間で段階的に防災に関する知識を深めるような仕組み作りが必要であると感じた。



## 第Ⅱ章 防災教育に係る指導内容及び指導上の留意点

### 3. 宿泊防災訓練(令和元年8月1日(木)～8月2日(金) 泊2日)

<目的>

- (1) 生徒、教職員の防災・減災意識を高める。
- (2) 地域の一員として災害発生時に何ができるかを考える。
- (3) 訓練を通じて、地域との連携を強化する。

<内容>

【訓練Ⅰ】「防災訓練」(講師:大和市消防本部予防課、場所:体育館、ピロティ)

- ①起震車体験(雨天中止) ②初期消火 ③三角巾法 ④スタンドパイプ

【訓練Ⅱ】「避難所開設を想定したシミュレーションの実施」(講師:本校職員 場所:2階ホール)

- ①訓練内容の説明 ②段ボールを活用した簡易ベッドの作製 ③就寝のシミュレーション

【訓練Ⅲ】「喫食訓練①」(講師:本校教職員、場所:多目的ホール)

- ①メニュー:アルファ米、カレー、水 ②防災備蓄について

【訓練Ⅳ】「防災講話」(講師:本校防災アドバイザー 水島 将隆 様)

【訓練Ⅴ】「懐中電灯を使用した歩行訓練」

【訓練Ⅵ】「喫食訓練②」(講師:本校職員)

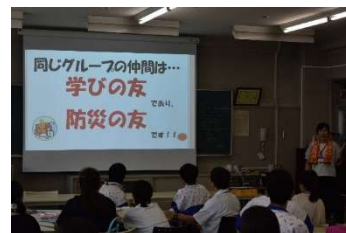
- ①メニュー:パン、スープ(コーン、わかめ、たまご)、水

<協力団体>

本校PTA、大和市長室危機管理課、大和市消防本部、学校運営協議会、地域関係者、神奈川県教育委員会保健体育課

<結果と課題>

- ・自治会へのお知らせが遅くなり、昨年度ほどの参加者を募ることができなかった。
- ・【訓練Ⅰ】「防災訓練」で学んだ三角巾法を生かし、競技会に出場することにした。
- ・【訓練Ⅱ】「避難所開設を想定したシミュレーションの実施」では段ボールを活用した簡易ベッドの作製を行ったが、就寝時に実際に使用し強度を確かめるところまで訓練することができた。



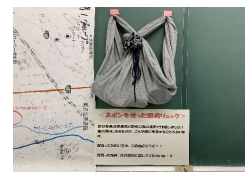
### 4. これまでの取組を文化祭(東翼祭)で展示発表

DIG研修会で作成した「街歩き防災マップ」、宿泊防災訓練で作製した「段ボール簡易ベッド」も展示しました。簡易ベッドは多くの来場者の皆様に寝転んでいただきました。かなりの強度です!ダイビングジャンプしても壊れません!!

2年生は外に飾る看板をみんなで作製!ここまで取り組んだ訓練のワークシートに登場した防災に関するイラストをみんなで貼り付けました!



準備は防災員会全員で行いました。3年生は、ズボンを使った簡易リュック作製にチャレンジしました。





## 5. 生徒対象防災講話

<目的>

東日本大震災をテーマにした防災啓発ドキュメンタリー映画を鑑賞したり、講話を聞いたりすることにより、自然災害等の危険に際して自らの命を守る「主体的に行動する態度」を身に付けるとともに、大災害を自分ごととして考え、地域の安全や命の大切さについて考える。

<実施日> 令和元年12月20日(金) 3、4校時

<講師> 小川 光一 氏(映画監督、作家、防災士)

<視察者> 10名

<結果と課題>

- ・防災啓発ドキュメンタリー映画の監督を講師としてお招きし、映画の上映と講話をいただいた。
- ・とてもわかりやすい映画で、本校生徒も集中して鑑賞することができた。
- ・講師の語り口がとても聞き取りやすく、生徒たちの心に響く講話になった。



C 評価する

A 改善する

## 6. 訓練から生きた学びへ

訓練を学習における「体験学習」という位置付けにすることにより、「やりっぱなし」にせず、「生きた学び」へ繋げることが考えられる。『「生きる力」を育む防災教育の展開（文部科学省、平成25年3月）』の「(2) 防災教育に関する指導計画の作成に当たっての配慮事項」において、『①学校は防災教育の評価を多面的に行うため、教職員による評価に加え、「災害に適切に対応する能力が身に付いたか」等に関して児童生徒等による自己評価を実施する。また、外部評価の導入も積極的に検討すべきであり、その方法としては保護者や地域住民等による評価をはじめ、学校や関係機関で構成する地域学校安全委員会等を活用することも考えられる。』と記されている。

訓練や学習の改善に「評価」することが必要ではあるが、取組に対し「良い」「悪い」の判断だけでなく、「どのように」「何を」行うのかを計画を見直す機会となる。また、生徒は「自分の役割の自覚」を促すためにも振り返り、つまり自己評価は必須となる。

災害時に「主体的に行動」し「迅速な行動」に結びつけるためには生徒・教職員も含めた「振り返り」が重要である。